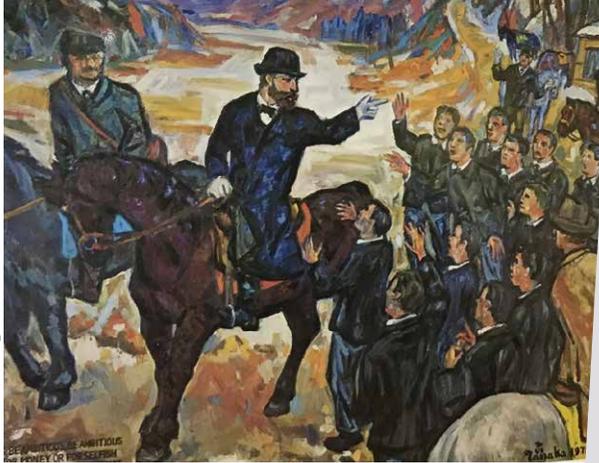


島松駅通所

# クラーク博士別れの地に「馬上の像」建設 気運高まる

## 「ボーイズ・ビー・アンビシャス」の真意



洋画家・田中忠雄作「島松での別離」(道赤レンガ庁舎内)

「ボーイズ・ビー・アンビシャス」と言い残して札幌農学校（現北海道大学）初代教頭のウイリアム・スミス・クラーク博士が去った「別れの地」である旧島松駅通所（北広島市島松）のある場所を中心に馬上のクラーク像を建立しようという運動が高まりを見せている。2年後の2022年秋の建立を目指し、来春から募金活動などを本格的にスタートさせる。

（ジャーナリスト 黒田 伸）

建立を目指しているのは、北広島市内に本拠を持つNPO法人クラーク別れの地・久蔵の里普及促進会（五十嵐恒夫理事長）。11月5日の理事会で、馬上の像のデザインをどうするか、建設資金の調達などについて意見が交わされた。クラーク博士は、1876（明治9）年7月に

来日して札幌農学校に赴任。実質的な校長として、学生たちに大きな影響を与え、約9カ月の滞在の後、翌1877（明治10）年4月16日に札幌・創成川沿いにあった開拓使庁舎前で別れを告げて、農学校の学生たちと教授陣、役人ら約20人とともに馬で旧道を南下。東へ20キロほどのところにあった札幌郡月寒村字島松（現在の北広島市島松）の島松駅通所で休憩した。馬での移動が一般的だった当時、道内にはいくつもの駅通所があり、馬を交換し、休憩や宿泊をする場所となっていた。一行は、そこで小一時間程度、散策を楽しんだ後、別れ際に馬上から学生たちに言ったのが「ボーイズ・ビー・アンビシャス」だったとされる。

島松駅通所の位置については、当時島松川の右岸にあり、現在の恵庭市

島松沢に当たるため、北広島と恵庭市で論争に発展したこともあった。

## 誤解されてゐる名言の地

その後、北広島市が「アンビシャス・シティー」としてキャッチフレーズを決めて発信を始め、クラーク博士は、北広島市内で名言を残したとして、市民らがNPOを立ち上げ、当時の別れの場面と同じような「馬上の像」建立へ向け、活動を続けている。

「札幌・羊ヶ丘のクラーク像があまりにも有名で、道民でさえ羊ヶ丘で名言を残したと思っっている。正確に史実を伝えて、クラーク博士の偉業を改めて知ってもらうためにも名言を残した地にどうしても馬上の像が必要だと考えました」

と同NPO法人の理事の一人は強調する。

観光地である札幌・羊ヶ丘展望台を訪れる多くの観光客は、展望台前の牧草地の前に立つクラーク像のイメージが脳裏に刷り込まれ、クラークが右手を水平に上げながら「ボーイズ…」と言ったと信じている人が多い。また、少し歴史を勉強した人は、北大構内にあるクラークの胸像を見て、北大の前身の札幌農学校で学生を前にして語ったと思っっている人も多いだろう。

北大構内の胸像が有名になったのは、昭和40年代のこと。札幌冬季オリ

ンピック（昭和47年）をピークに、多くの観光客が観光バスで訪れるようになり、北大側が研究活動に支障が出るとして観光バスの構内への入場を禁止する事態となった。そこで札幌観光協会が開拓者精神を伝えるシンボルとして、クラーク博士の来道100年に当たる1976（昭和51）年に羊ヶ丘展望台に新たな

## 坂垣道作の「羊ヶ丘」像

羊ヶ丘の像の作者をたどっていくと、クラーク像をめぐる当時の状況が見えてくる。

銅像は、北海道を代表する彫刻家の坂垣道氏が「丘の上のクラーク」というタイトルをつけて、完成させた。

坂氏は1920（大正9）年に石川県能登市の

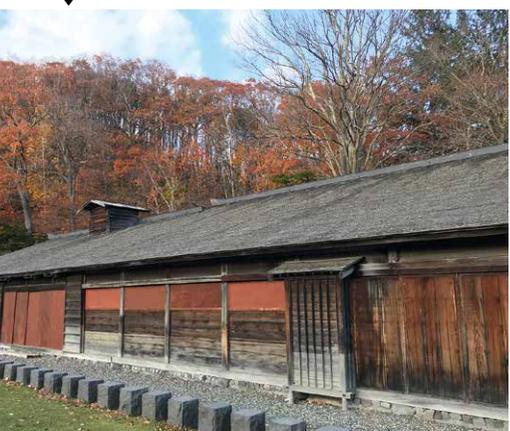
クラーク像を建立した。羊ヶ丘のホームページなどには「開拓の父」と書かれている。しかし、その後、教え子たちのなかに新渡戸稲造や内村鑑三らの知識人が生まれたことを考慮するなら、自由と平等、博愛と自主・独立の「クラーク精神」を北海道に植え付けた教育者という評価の方が当てはまる。

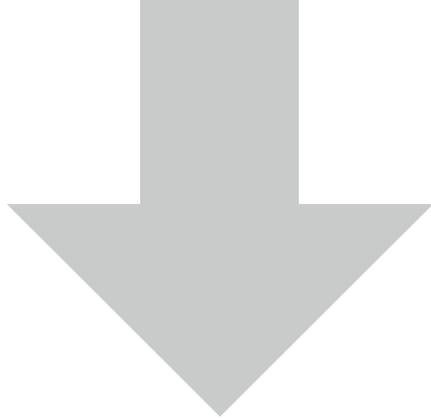
画家一家に生まれ、小学校3年生のときに母親とともに札幌に移り住んだ。画家を志望したが色弱だったため、彫刻家の道歩み始める。

1938（昭和13）年に北海中学（のちの北海道）を卒業し、東京美術学校彫刻科（のちの東京芸大）に進学。だが学

徒出陣で南方軍として戦地に赴き、バンコクで終戦を迎える。捕虜として10カ月間、収容所で暮らし、帰国後は札幌北辰中学の美術教諭となつて結婚。長女・和何子さんが生まれている。その後、北海道女子短期大学（のちの北翔短大）教授などに就き、北海道を代表する彫刻家としての地位を築いた。56歳の時の作品がクラーク像だった。

娘の和何子さん（札幌





続きは『月刊クオリティ』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<http://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)